

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
人間文化学部心理コミュニケーション学科	下郷 大輔	2024年5月1日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

【前期】

司法・犯罪心理学Ⅰ学部Ⅰ学科Ⅰクラス
基礎ゼミナールⅠfⅠ学部2学科Ⅰクラス
卒論指導演習Ⅰe 学部2学科Ⅰクラス
臨床心理基礎実習Ⅰ研究科Ⅰクラス
犯罪心理学特論Ⅰ研究科Ⅰクラス
研究演習ⅡⅠ研究科Ⅰクラス
大学院附属臨床心理センターにおける心理臨床活動
大学院附属臨床心理センターにおいて相談研修員(大学院生)に対する指導(スーパービジョン)

【後期】

社会・集団・家族心理学Ⅰ学部Ⅰ学科Ⅰクラス
卒論指導演習2eⅠ学部2学科Ⅰクラス
専門演習B・DaⅠ学部2学科4クラス
産業・組織心理学Ⅰ学部Ⅰ学科Ⅰクラス
心理実習AⅠ学部Ⅰ学科Ⅰクラス
家族心理学特論Ⅰ研究科Ⅰクラス
臨床心理基礎実習Ⅰ研究科Ⅰクラス
産業心理学特論Ⅰ研究科Ⅰクラス
大学院附属臨床心理センターにおける心理臨床活動
大学院附属臨床心理センターにおいて相談研修員(大学院生)に対する指導(スーパービジョン)

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

自分で物事を考えられるようになるために、主体的に学ぶ姿勢を身に付けてほしい。また、自由な発想を持って、物事を多角的にとらえられるようになってほしい。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

専門科目では、レポートのテーマを「社会で起きている事象」から選択してもらい、心理学的視点で考察を行うように指導を行っている。

また、出来事に対して一つの解釈に固執せず、多様な価値観を持って物事をとらえられるようになることを意図して、授業では個人の持つ価値観を積極的に言語化するように促している。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

学部レポートでは、社会的事象に対して、感想から考察までレベル感は様々ではあるが、自分の意見や主張が記載されるようになった。

大学院レポートでも同様の記載が見られるほか、臨床心理センターでの実習の中でも、対象者に対して多角的な見立てが行えるようになった。

【目標】(今後どうするか)

社会に出た際には、物事に柔軟に対応できる力や自身の考えを主張する力が求められると考えています。学部を卒業して就職をされる学生さんや、大学院を修了して専門家になろうとする院生さんが、社会で生きていくための力をつけるお手伝いができればと考えています。